

「サード・ステージ・プラン」の策定について

セカンド・ステージ・プランの策定から10年、この間、世界経済の競争の激化や地球環境問題の深刻化、食糧危機やエネルギー危機などが急激に現実味を帯びてきており、我が国の文化学術研究の拠点としての学研都市の果たす役割が一層重要になってきています。サード・ステージ・プランは、このような背景のもと、学研都市の今後10年の取り組みの方向性を示すものです。

サード・ステージ・プランの6つのポイントを以下に示します。

(1) 総力を結集した「持続可能社会のための科学」への取り組み ～全国に先駆けての展開～

世界経済の競争の激化や地球環境問題の深刻化などに対し、学研都市の重要な研究分野として「持続可能社会のための科学」を積極的に位置付ける。

「けいはんな 持続可能社会のための科学推進会議」ともいべき学際的な研究交流の場を設け、これまでの学研都市の多様な知の集積を活かして、人文・社会科学分野と自然科学分野との総力を結集して推進していく。

(2) 国際研究開発拠点としての新産業の創出！ ～産業化・広域化・国際化の展開～

我が国が世界に冠たる科学技術創造立国として今後も世界の文化学術研究の発展に寄与していくためにも、産学官連携の推進体制の強化、研究開発型産業施設や生産施設の立地促進等を図り、学研都市が原動力となって新産業創出に取り組んでいく。

それとともに、国際研究開発拠点としての海外に向けた戦略体制の構築、国際化に向けた都市環境整備の推進等を図り、アジアをはじめとした世界に開かれた都市を目指していく。

(3) 文化拠点の高度化と新たな文化学術研究の推進！ ～文化学術研究と国際貢献の推進～

国会図書館関西館二期事業、平城遷都1300年記念事業の展開による文化拠点の高度化や施設の整備充実または各施設間の連携により、新たな文化学術研究を推進していく。また、これまで文化遺産に関する保存修復、研究活動が積極的に展開されている実績を活かし、引き続き文化遺産の保存修復などによる国際的な活動、国際貢献を推進していく。



我が国のアジア関係情報やデジタルアーカイブの拠点として期待される「国立国会図書館関西館」



2010年開催の平城遷都1300年記念事業における復原された「大極殿正殿」前のイメージ(平城遷都1300年記念事業協会提供)

(4) 未来を拓く知の創造都市の実現！ ～市民や研究者による都市活動の展開、持続可能なまちづくりの実現～

我が国初の創造的未來対応型都市として、未来を拓く知の創造都市の実現を目指す。

その目指すべき都市像とは、「市民や研究者の知による、生産や文化が創出され新しい価値が創造されるとともに、持続可能社会での住まい方や生き方が創造・発信される都市」である。またその実現に向けて、「実証実験」の展開、「体験し学ぶ新たな観光」等の推進といった学研都市のフィールドを活用した創造の場の形成を図る。



小型車両ロボットI-CW（ユーザ搭乗型移動端末）による公道走行実験(2005年11月24日)



「体験し学ぶ新たな観光」の推進に向けて期待される体験型学習施設「私のしごと館」

(5) 学研都市の活動を支える基盤整備の促進！ ～サード・ステージにおけるスピードアップ～

サード・ステージにおいて、学研都市における学術研究活動や市民活動を支えるため、「関西国際空港へ1時間、京都・大阪・奈良へ30分」のアクセスの実現にむけた関連道路整備や土地区画整理事業等による面的な基盤整備を推進し、併せて鉄道・バス等の公共交通サービスの充実・強化を図る。

(6) 「高度な都市運営」に向けて、大きくステップアップ！ ～「都市の建設」から「建設推進・高度な都市運営」へ体制の強化～

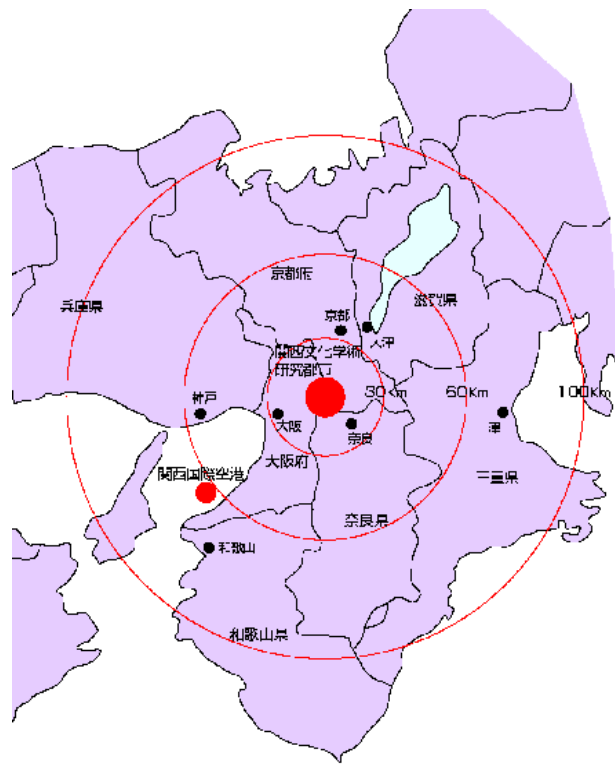
学研都市は、「都市の建設段階」（セカンド・ステージ）から、現在「建設推進・高度な都市運営の段階」（サード・ステージ）を迎えつつあり、今後は、関西全体で学研都市を支え・推進する体制づくり、学研都市を一体化した新たな運営組織づくり、学研都市全体の産学官連携組織の構築を図る。



学研都市と大阪方面とのアクセス向上のため、全線供用が求められる第二京阪道路



学研都市の新たな都市運営展開の拠点となる「けいはんなプラザ」



学研都市の概要

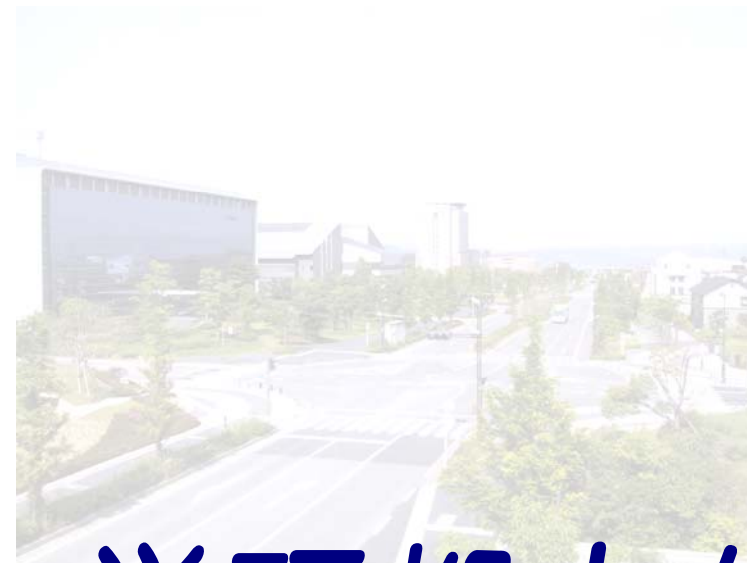
関西文化学術研究都市は、1978年の奥田懇談会により提唱され、1987年の関西文化学術研究都市建設促進法の施行以来、豊かな歴史と自然に恵まれ、大阪府・京都府・奈良県の3府県にまたがる京阪奈丘陵において、産学官の連携のもとに国家プロジェクトとして事業が進められてきました。特徴のある12の文化学術研究地区（計3,600ha）が分散・ネットワーク型に配置・計画され、現在約45%が整備され、人口は22万人、進出機関は250に達しているところです。

1996年の「セカンド・ステージ・プラン」の策定から既に10年が経過し、学研都市は今、新たな段階（サード・ステージ）を迎えようとしています。そこで、策定委員会により平成18年3月に「関西文化学術研究都市サード・ステージ・プラン」がとりまとめられました。今後は本プランにもとづく多様な取り組みが期待されます。

国土交通省 都市・地域整備局 関西文化学術研究都市建設推進室

ホームページ <http://www.mlit.go.jp/crd/daisei/daikan/index.html>

電話 03-5253-8402 FAX 03-5253-1587



学研都市が変わる！



～学研都市の新たな展開を目指して～

「関西文化学術研究都市サード・ステージ・プラン」の概要